

平成 26 年度 第 1 回 焼津市地域公共交通市民分科会 会議録		開催	日時 平成 26 年 10 月 8 日 午後 2 時～3 時 40 分
			場所 市役所 6 階 603 号室
協議事項	分会長の選出について		
報告事項	(1)平成 25 年度 自主運行バス・路線バス実績について (2)運営基準による平成 25 年度実績評価について (3)平成 26 年度 焼津市内バス路線の利用状況(4～8 月)について (4)(仮称)下根方地区デマンド型乗合タクシー導入検討のための地区説明会について		
協議事項	(1) 焼津市バス路線運行計画(案)について		
出席委員 15 名	(委員) 委員 清水 栄男 (焼津市自治会連合会) 委員 岩崎 四郎 (焼津市自治会連合会) 委員 半田 武生 (焼津市自治会連合会) 委員 山内 道弘 (焼津市自治会連合会) 委員 岡本 勝市 (さわやかクラブやいづ連合会) 委員 鈴木 春子 (焼津市民生委員児童委員協議会) 委員 山田 敏晴 (焼津市身体障害者福祉協会) 委員 菊池 雅子 (焼津商工会議所) 委員 天野 雪子 (大井川商工会) 委員 原川 二三四 (公募) 委員 小川 弘人 (公募) (事務局) 寺尾 隆之 (都市基盤部長) 篠宮 和行 (都市基盤部都市計画課長) 落合 和弘 (都市基盤部都市計画課公共交通担当主幹) 平田 規善晴 (都市基盤部都市計画課公共交通担当)		
欠席委員 3 名	委員 平田 五子 (さわやかクラブやいづ連合会) 委員 石野 雄大 (焼津青年会議所)		
議事内容			
会議の成立	委員総数 13 名の内 11 名が出席。過半数を超えているため会議は成立。		
協議事項	分会長の選出について ・委員に選任について諮ったところ、岩崎委員より清水委員を推薦するとの意見があり、この意見に全委員が賛同。清水委員を分会長に選任。		
報告事項	(1) 平成 25 年度 自主運行バス・路線バス運行実績について ・平成 25 年度における自主運行バスの利用者数と経費の推移、並びに路線バスの利用者数、不採算路線への補助金について報告。 ・自主、路線ともに利用者数が減少し、経費が増加している。		
	(2) 運営基準による平成 25 年度実績評価について ・全体の評価は基準を満たしているが、路線別の評価では大井川西部循環線が基準を満たしていないため、廃止を含めた抜本的な対策が必要となる。		

・ただし、即廃止ということではなく、まずは地域に参加・協力を求め利用を促進し利用者を増やし収益を向上することで基準を満たすような対策を検討し、実施していく。(事務局)

○利用者が年々減っているが原因は把握しているのか。(山内委員)

⇒具体的な原因の把握は難しいが、再編後の路線・ダイヤについて周知が足りていないことが一因かと考えている。(事務局)

○運行経費の内訳がわかれば教えてほしい。その中で地区または路線ごとの際があるのであればそのような要素も路線評価に加味してはどうか。(小川委員)

⇒運行経費の内訳は運行事業者からもらっているので今後の会議で情報提供させていただく。経費については、路線ごとの走行距離に応じて積算されており、路線ごとの差異は特にない。(事務局)

○運行業務委託は単年度契約か。また、業者選定の方法はどうか。契約金額は適正か。(山内委員)

⇒単年度契約であり、毎年、制限付き競争入札により業者選定をしている。道路運送法4条の許可を受けている業者が対象となり、近隣では現事業者しかいないため、結果として1社の入札となっている。契約に際しては、金額の根拠資料を提出してもらい精査しているが、一般路線の経費と比べ大きな差異はないことを確認している。(事務局)

○広告収入の内容はどうか。(清水分会長)

⇒車内放送が1件(年額5万円)となっている。今年の7月から焼津循環線の2台について車体後部表示板の広告(年額10万円)の募集を開始したが、現在のところ応募はない。(事務局)

○広告についてはもっと安く設定すれば応募があるのではないか。(山内委員)

⇒積極的な呼びかけをし、金額については今後検討させていただく。(事務局)

○焼津大島線と藤枝相良線には補助金を出していないようだが要因は何か。(清水分会長)

⇒焼津大島線は静岡福祉大の生徒の利用があることと、焼津駅と市立病院間を焼津市の中心地を通って往復していることが利用が多く現在のところ補助をしなくても運行事業者単独で運行が継続されている。藤枝相良線については焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町の3市1町をまたがる路線であり、国の補助対象となっている。また、追加補助については自治体間での調整をしておらず、補助も行っていない。(事務局)

○焼津大島線の利用が多い要因を、今後のバス路線検討の参考にしてほしい。(清水分会長)

○自主運行バスについて市民からの要望・意見の推移はどうか。(岡本委員)

⇒今年の乗降調査の際にいただいた意見としては路線継続についての要望が最も多く、次いで増便の要望が多いが、過去からの意見を集計したものはないので今後作成をして報告させていただく。(事務局)

(3) 平成 26 年度 焼津市内バス路線の利用状況 (4~8 月) について

- ・ 4~8 月の利用状況について報告。
- ・ 全体として昨年度に比べて収入、利用者ともに増加している。(事務局)

○昨年に比べ利用が増えているようだが、さわやかクラブさんでバスを利用したイベントなどを開催していると聞いた。このような利用方法についてもっと PR していけば利用につながると思う。(鈴木委員)

○さわやかクラブではお酒の席があるような時にはバスを使用するようにしている。(岡本委員)

⇒さわやかクラブさんにはすでにご協力いただいているが、今後もバスの利用について話をさせていただく予定である。また、介護予防を絡めたバス利用の PR を考えている。(事務局)

○清水区で清水エスパルスの選手がバスに乗って市内を案内する企画をしたようだ。焼津でも例えばマリンレディの方にそのようなことをしてもらえば利用促進になると思う。(原川委員)

⇒行政では思いつかないアイデアであり、参考にさせていただく。(事務局)

○バス利用促進のため、地元自治会で学童を集めバス通学ができないか学校に確認をしている。小さいころから実際にバスを利用することで今後のバス利用につながるかと考えている。(山内委員)

⇒7 月以降、自治会連合会や地区会に出向き、お願いをしていく予定。(事務局)

(4) (仮称) 下根方地区デマンド型乗合タクシー導入検討のための地区説明会について

- ・ 下根方の地区役員会において、昨年度実施した導入検討に関するアンケート調査の結果と今後の方針について行った地区説明会について報告。
- ・ 今後の方針について、地元の皆様に制度を理解していただくために説明会を実施していく。(事務局)

○現在、つつじ平自治会では高齢化が進み車を運転できない方が増えてきている。そういった方の移動手段を確保するため、自治会が主体となって乗合タクシーなどの実施が可能かどうか研究・検討している。(山内委員)

○近隣市町のデマンドの実施状況はどうか。(清水分会長)

⇒藤枝市、掛川市、磐田市、富士宮市などで実施している。自主運行バスの代替路線として実施しているところが多い。

○下根方地区のデマンドタクシーに対する要望・反応はどうか。飯淵地区では定期的に近所の方が車を出し、乗り合いで買い物などに出かけている。(岡本委員)

⇒下根方地区ではもともとバス路線の要望があり、対応を検討した結果、地理的・人口規模的にデマンドタクシーの導入を検討することとなった経緯がある。地元からの要望はあるが、昨年度実施したアンケート結果では利用したいという方の数が少なく、早急な導入は見送られた。今のところ、自分の車や家族の送迎によ

	<p>り移動をしているようだが、将来的には移動が困難となりデマンドタクシーが必要になるとの認識から、導入した際にスムーズな利用ができるよう協議を進めていきたいとのことであった。(事務局)</p>
協議事項	<p>(1) 焼津市バス路線運行計画(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼津大島線及び藤枝吉永線を大井川庁舎に乗入れることにより、路線バスと自主運行バスの乗り継ぎ拠点とする。同時に、路線が過剰的な大井川焼津線の市立病院から焼津駅までの区間について減便又は区間廃止をして、大井川地区の効率的な公共交通ネットワークの構築を目指す。(事務局) ○大井川西部循環線の藤枝駅への接続について検討をしてほしい。そうすれば、利用者は増える。他の大井川西部地区の自治会長からも同様の意見がある。(山内委員) ⇒要望については把握しているが、大井川地区全体の公共交通ネットワークをみながら、デマンドタクシーなど他の運行手段も視野に入れながら検討をしていく。(事務局) ○大井川焼津線は利用者が増えている中で区間廃止を含めた見直しを検討しているが、大島線の延伸と競合するためやむを得ないかと思うが、直通便がなくなることで乗り継ぎが必要となる。現在の大井川地区から焼津駅への利用状況を見て、乗り継ぎ割引の導入について検討してほしい。(山田委員) ⇒乗り継ぎ割引については連携計画にも記載があり有効であると考えているが、割引の価格や実施方法などの調整や乗り継ぎ割引をする際のシステム改修の費用などの問題から、早期の導入は困難な状況である。(事務局) ○区間廃止をすることにより直通便がなくなり利便性が低下する。利便性が低下することにより利用者が減少してしまう。運営基準による評価で大井川焼津線は利用促進をすることになっているが、これでは逆行しているように感じる。(清水分会長) ⇒大井川庁舎に焼津大島線を延伸しかつ藤枝吉永線を乗り入れることで、大井川地区全体の公共交通ネットワークの利便性を高め、焼津大島線と競合することとなる大井川焼津線の直通便を見直すことで公共交通の効率化を図る計画となっている。今後は大井川地区の再編によるメリットとデメリットを精査し、実施に向けて地元の説明をしながら進めしていきたい。(事務局) ○協議事項について今回出た委員の意見を踏まえ、地域公共交通会議に提案する。(清水分会長)